

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。議長の登壇の許可を得ましたので、上野淑子、一般質問をさせていただきます。

きょうは朝からびっくりするような寒い中、雪の中、本当に大変でございました。きょうは高校入試、時間おくれで皆さん大変だと思いますけれども、中学生の皆さん、全力を出して自分の力を発揮していただくように願っております。

では、一般質問を始めさせていただきます。

私は、きょうここに立って4年になります。合併してから4年、不安と期待でどういう市になるんだろうかと思いつつながら議員に当選させていただき、ここに立たせていただきました。そして、樋渡市長のもと、地域の皆さんのいろんな住民の声を届けながらここまで参りました。きょうは4年間の締めくくりだと思っております。私が届けました小さな声、大きな声、たくさんいろいろありましたけれども、その中で実現できたもの、できなかったもの、多々ありました。でも、これだけはどうしても4年間の最後に届けておきたいということのみを質問させていただきたいと思っております。

まずは、命の大切さについてです。

このことについても、もう既に一般質問いたしておりましたけれども、私はあれから4年、社会情勢、武雄市の情勢、いろんな情勢を見ながら、どうして命をこんなに粗末にするのかなという事件が次々に起こり、人の命、自分の命を大切にしないことに痛切に心を痛めております。

そしてまず、このごろ驚くことですが、3月2日の佐賀新聞に自殺について載っていたと思います。自殺は、交通事故の6倍の人数だと言われております。そして、数字としましては、1年間に3万2,753人もの方が自分の命を捨てていらっしゃる。どうしてこんな状態になったんだろう。国としても、内閣府としても、本当に重大なことだと取り上げているような施策を練っていらっしゃいます。

1つお尋ねしたいのは、次年度の予算にですけれども、県の補助金の自殺対策緊急強化基金事業費というのがついておりますが、本市においてはどのようにこれを具体的にお使いになるのか、どのような対策を練っていらっしゃるのか、まずお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おはようございます。地域自殺対策緊急強化基金事業、議員御指摘がございましたけれども、この事業につきましては平成21年度途中から始まっております。その中で、私たちといたしましては、心と命の文庫事業ということで、図書館と保健センターに設置をいたしたいと思っております。

また、来年度の予算要求の中の話でありますけれども、自殺予防研修会の講師謝金、あるいは心の相談事業の人件費、そして、自殺予防のための資料代や、うつ病のチェックリスト、市民の皆様方への配布用パンフレット等の購入費を計上いたしたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、やはり自殺という本当に悲惨な状況に追い込まれる前に、回避の方法等を私たちが一丸となって共有する必要があるだろうということから、私たちはこの予算、基金というのを本当に効果的に用いたいと、このように思っておりますので、ぜひまた議員のアドバイスをいただければありがたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にありがたいことだと思います。命を大切にすると、本をあちこちに置くとか、いろんな方策を練っていらっしゃるのは本当にうれしいことだと思います。武雄市においても、相談窓口が今もたくさんあるんじゃないかと思っておりますが、その相談窓口がどのようなことを——市で現在ですね、この予算がついてからされるのではなくて、現在までにどのようなことをされていたのか。そしてまた、そこにはどのような相談が寄せられていたのか。今市長がおっしゃいましたように、未然に防ぐということで、それは相談以外にないと思うんですけども、どのようなことが寄せられていたのか、実態をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

おはようございます。今現在、武雄市では山内と北方の保健センターで行っております。山内保健センターが毎週月曜日、それから北方が毎週木曜日ということで、これは心と体の健康相談ということで行っておりまして、精神的な悩み、それから健康上の悩みですね。ですから、統計的にとりますと、北方は相談件数、かわり合ったのは781件。これは、木曜日にグループの方が活動されております。その方の健康相談とか悩みを聞いているということで、山内のほうが105件、これはやはり心と体ということで、健康と精神的な相談ということで聞いております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

その内容について、私から補足をいたしたいと思います。

これは基本的に、年齢層が非常に幅広いんですね。結構御高齢の方が多いかないかと思ったり、さにあらずです。結構若い方も多い。その中で、幾つか例を申し上げますと、やはり家庭上の問題、それと、先ほど部長からありましたように御自身の健康上の問題、そして、今リストラ等がありますので、そういう経済上の問題ということが、私を知る限り、報告を受けていて私が直接、間接に知る限り、そのような内容になっております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

いろんな施策を練っていらっしゃる中、たくさんの相談件数もあると聞いて、本当に驚いておりますけれども、いろんな相談がある中で、私はここで4年間考えておりました本当に必要だなと思ったことですが、県のほうでは「いのちの電話」というのがあります。それは、24時間体制でボランティアでやっておられます。そこに、ちょっと問い合わせてみましたところ、年間で1万8,218件もあって、月平均が1,518件もの利用者があると言われております。いのちの電話は、みんなボランティアで旅費を出しながら、研修費も2万円自分で出して、みんな自分でしている施設であります。そこではもう満杯になっていると。

そして、相談されている件数の中身で一番多いのは、やっぱり命に関することであるということですね。悩みを打ち明けるといふことなんですけれども、私が市でもこんなにいろんなことをされていらっしゃる、女性は女性で相談の窓口があるし、いろんな場所もあるといふことは存じておりますけれども、やっぱり命を絶つというまでには本当に大変な心の悩みといふのがあって、それは昼間明るくて、お日様が照っていて皆さんがいらっしゃる時にはそういう気持ちにはならない。私も、いのちの電話にしばらく行っておりましたので、いろんなことをお聞きしておりました。本当に、夜にそういう電話がたくさんかかってくる。夜中にかかってくる。だれもいなくなって1人になったときに、ふっと何か寂しくなってくる。その相談の窓口が私は欲しいなと思って、きょうはここに質問をしておるんですけれども、昼間の健康相談、心の相談、あちこちいっぱいつくっていらっしゃる、そこに行かれる方もいっぱいいらっしゃいます。でも、本当に命をどうするか、こうするかといふときには、どうしても暗くなってから、夜とかですね、そういうときが多いと思うんです。

ですから、そういう窓口を何とかしてひとつ設けていただけないかなというのが、私のきょうの提案なのです。これもまた、人件費云々、みんな費用のかかってくるところでありますが、最終的に、どうしてもみんなの、地域の、いつも市長がおっしゃっている弱い人の声を聞く、守るためには、私はどうしても相談窓口をですね、今ある相談窓口とともに時間を延長する窓口が欲しいなと思っております。そして、みんなの声を聞いていただきたいと思

います。

いのちの電話は佐賀1カ所ですけれども、もう満杯になって、あちこちに出張所じゃないですけど、つくらないかなというふうになっております。いのちの電話もボランティアでずっと始めておりますけれども、そこにしている人たちも高齢者になったりなんかで、だんだんだん減ってきて人数も足りなくなっている。本当にそういう状態です。ですから、これはボランティアではなくて、何か市の相談窓口の電話で結構ですから、時間延長とかできればいいな、しなくてはならない状態じゃないかなと、この辺の近々の状態を見たときに私は痛切に思っております。

そしてまた、自殺という行為が今本当に低年齢化しております。ですから、いつ、どこで、どういう状態になるかわからないような、本当に何とも言えない世の中になってまいりました。だから、小さな電話1本の窓口でしょうけれども、不安な心を聞く、そういう窓口が欲しいなと思っておりますが、お考えはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

確かに、私自身の経験を照らし合わせてみても、私が昔、総務省にいましたときに人事を担当していたときがありまして、その職員の皆さんたち、もう何万人といましたけれども、大体おっしゃるとおり、そういう悩みとか、あるいは自分がうつ病になりそうだということについては、夜やっぱり相談があって、私は「夜の人事課長」と言われたこともありますけれども、よくいろんな相談を夜に承っていたのは事実であります。確かにそうかなということでは思いますので、今、これから制度設計をきちんと行いますけれども、一つの方向として、まず時間延長をさせていただきたいと思っております。試験的に時間延長をさせていただいて、そのことでもし、例えば夜間にそういう御相談があると、そういうニーズがあるということであったときには、きちんと本格的に窓口、あるいは人のやりくりとか、これはいのちの電話とも提携する必要があるかもしれませんので、そういったことも踏まえて、まず時間延長で対処させていただいて、また、そのニーズを見ながら広げていくということで、2段で分けてちょっと考えてみたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

感謝しております。

内閣府が打ち出しているキーワードですけれども、「気づき」「つなぎ」「見守り」、こ

れによって自殺を200人以下にするという目標を立てられているようです。我が市においても、本当に頑張らなくてはいけないなど、守らなくてはいけないと思っております。今のよりに時間でしていただければ、きょうは多分テレビで聞いていらっしゃる方もたくさんいらっしゃると思うんですけども、早速にも電話をかけたいなど思っている方もいらっしゃると思います。どうぞ本当に、みんなでみんなを守りながら市政を築き上げていきたいと思っております。ありがとうございました。

続きまして、障がい者に優しいバリアフリーな地域づくりを目指してということに幾つかお尋ねをしたいと思えます。

まず初めにですけれども、今までにいろんな議員の方々の提案で、随分とバリアフリーな市になってまいりました。私がお願いしたことも、いろんなことができ上がってきたりして、どれもだんだんと構築されていっているように思えます。

これは1つお尋ねですけど、私、一番初めに道路のバリアフリーについて質問をいたしました。例えば、車いすの方がすれ違ふことができなよとか、段差があつて大変ですよ、それから、乳母車を持っていったときに上がれないよ、いろんなことがあるよというようなことを言ったときに、市のほうは一応見回つて、それから優先順位をつけながらしていきますよという返答いただいておりますが、最近またそういうことをちらつとお聞きしたもんですから、本当に広い市ですので、市道、町道、いろんな道があつて大変と思えますけれども、一応どういふふうな進捗状況、どんなふうに進められてきたものなのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

今の質問は、道路に対する危険箇所の把握はどうなつているかということだと思います。そのことについてお答えいたします。

危険箇所につきましては、職員による道路パトロールというのを毎月やっております。それは、うちの職員で大体4班ぐらいに分けて市内を回つという形で点検をやっております。

それと、道路維持補修関係で、職員2名体制で今、常時、毎日市内を回つてはいますが、その職員がチェックしながら、ああ、ここは危険だなというところについては補修をするというふうにしております。

それと、二、三年に1回ということ、国道維持出張所、あるいは土木事務所、そして市、それとお年寄りの方、あるいは視覚障がいの方、それと車いすを利用されている方、こういう方たちで市内を――市内の主要道路ですけど、どういうところが危険か、どういうところを補修せにゃいかんかという点検をやってるというふうな状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

○8 番（上野淑子君）〔登壇〕

前日も、そういうパトロールをするという返答をお聞きしておりましたので、回っていただいてありがたいと思っております。

今回の一般質問でも、危険な道路についてはいろんな質問があつて、その解消とか、いろいろ方策をとられているようですけれども、私が質問しているのは、今見て回られてどうなりましたかということをお聞きしたいと思うんですが。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、21年度のデータで申し上げたいと思います。

まず、道路維持分でありますけれども、道路補修の当初予算が1億円です。その中で、側溝整備の御要望が45件ございました。45件のうち実施済みが34件であります。45分の34が実施済みであります。

道路維持は、55件御要望がありまして、そのうち実施済みが41件であります。55分の41。

舗装補修でありますけれども、これは御要望が32件市内からありました。32件のうち実施済みが25件、32分の25であります。

基本的に、これは優先順位等があつて、それともう1つは補修の困難性等もありますので、直ちにはできないかもしれませんが、私たちといたしましては、これは以前、上野議員にもお答えしたと記憶しておりますが、道路の補修、特にユニバーサルデザインを意識して、補修予算の配分については、なるべく今あるものをきちんと生かそうという観点から、補修費のほうになるべく予算の配分を回そうということで今考えておりますので、ちょっとこれもきちんとまた実証する必要があるだろうというふうに思っておりますけれども、今の進捗状況としては先ほど申し上げたとおりであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

○8 番（上野淑子君）〔登壇〕

随分と進んでいるようで、うれしく思います。行政としては本当に大変な広い範囲を、いろんな要望がある中を、大変だと思いますけれども、これからも道路については細かい目配りをしていただき、進めていただきいと思っております。

次に移りたいと思います。次は、介護についてお尋ねをいたします。

この介護についても、私も何度か一般質問をさせていただきましたが、高齢化が進み、4年前よりまた進んで、また新たな問題もいっぱい出てきているように思います。

在宅介護についての質問をさせていただきますが、今、在宅介護をしながら入所を希望していらっしゃる待機者というのですかね、その方がどのくらいいらっしゃるものなのか。また、その方たちに対して、市としてはどのような施策をとっていらっしゃるのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

特別養護老人ホームの待機と老人保健施設の入所待機者が、2月1日現在、257人です。内訳としましては、特別養護老人ホームが208人、老人保健施設が49人の待機者の方がいらっしゃいます。この方は、他の施設への入所、それからショートステイ等とか、あとは在宅サービスで待機しておられる状態でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

257人の方が待機していらっしゃるということですがけれども、大体市として、めどとしてどのくらいの期間でですね、そんなのわかりますかね。わかりましたら。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

必要とされる方が、それぞれの施設に契約を結んでおりますので、その契約された施設があればということでもありますので、その実態についてはわかっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

私も施設に行ってお聞きしたところ、やっぱりめどはなかなかつかないということをお聞きしたんです。それで、本当に在宅介護はどういうものなのかは、皆さんも御存じじゃないかと、ここの中にも在宅介護をしていらっしゃる方もたくさんいらっしゃるんじゃないかと思えますけれども、私は自分が在宅介護をしてみて、これはどうすればいいのかなというのを考えております。

せんだって、在宅介護支援交流会に私も参加させていただきました。それは、社協の赤い羽根募金でしていただいたんですけれども、そこに参加させていただいて、いろんなことをお聞きして、久しぶりでしたけれども、いろんな方にたくさんの意見をお聞きしながら、ああ本当に、まだまだ在宅介護というのはあれから——私が介護してからもう10年近くなるんですけれども、本当にだんだんだんだんこれは深刻になってきたなということを痛切に感じ

てきた次第なんです。

12月の議会に私はそのことも、また在宅介護についても質問をしたと思いますが、そのとき市長の答弁で、何とかしなくてはいけないという返事を聞いていた。それが、今度、次年度の予算で交流会を6カ所するようになりましたという返答をお聞きして、本当にうれしく思いました。

その在宅介護者の中の話、少々市長にもこれは聞いていただきたいことなんですけれども、そこにいらっしゃる方のいろんなお話を聞きました。まず、私本当に思ったんですけれども、1人の方が、自分の連れ合いが寝たきりになっている、車いすで動かせるのは動かされると。そして、おっしゃることが、この人と私はもう間もなく別れんばいかん。あとわずかだ。このわずかの間に、何とかしてこの人と一緒に楽しい時を過ごしたい。だから私は、車いすで行けるところは行きます。この前は回転ずし屋さんにも行きました。夫は「これ」と言って、にこっと笑ってね、それだけで私は――。だから、そんなことを少しでもいいからしていきたいと思って頑張っていますと。

そして、そのときにおっしゃったことは――同じことを何人かの人がおっしゃいましたけれども、その中で要望として1つ、介護タクシーを使う、介護タクシーは高い、私たちは年金暮らしです。国民年金です。だから、ごっとい介護タクシーを使っては行けない。介護タクシーの補助金とか、何かなかねと。1つそれを言われました。市の職員の方も1人参加していらっしゃいましたけれども、障がい者に対する介護タクシーは出ておりますが、でも、それは1万円ですね。ですから、すぐなくなってしまうと。だから、もうわずか、もう別れるのはそこだと。行きたい、お金はない、何とかそれはできませんかということも1つ言われました。

それから、その中の幾つかのことですけれども、もう1つは、紙おむつの支給をさせていただいております。でも、それだけでは足りません。私たちは年金です。そんなくらいいらい何とかされんですかと。入所したらたくさんお金がかかるでしょう。ほんの少しですけど、それはできんもんやろうかと。それは、私も自分が試してみたいと思いました。紙おむつの支給がありますけれども、足りません。私たちは働いておりましたから、できましたけれども、そういう高齢者が高齢者を介護していらっしゃる老老介護の方のお話を聞いて、本当もう痛切に思いました。

そして、次の方は、これは本当にうれしいことでしたけれども、その方は自分の娘さんで、もう五十幾つになられますけれども、脳性麻痺で、もう全くですけれども、ヘルパーさん、ケアマネジャーさん、いろんな方の助けを受けながら、私は80になりますけど、この子を介護しながら一緒に生活ができると、それは本当に感謝していますと。だから、ヘルパーさんが来てもらったり、市の援助、いろんな援助をすべて受けながら親子で暮らしていますと。私は、その方たちが来てもらったら手を合わさずにはおれませんと。その方は、もうどがん

でん感謝しているとおっしゃいました。本当にうれしいですと。

ほかに、たくさん来ていらっしゃった人たちも、本当にありがたいこともある。でも、自分たちはできるだけ自分たちの手で看護せんばらんで、一生懸命になってしよるけれども、そういう小さなことですけどね、そういうところが足りない。

そして、最後におっしゃったことは、自分たちが急にこの人を置いて用事に行かんばらんときがある、どうしても出たいときがある。そのときに、施設ですね、北方ですから杏花苑ですけど、どこも一緒だと思いますけれども、そこに預けるときに、3時から預けて、遅くなって迎えに行ったら2日分払わんといかん。それも払い切らん。でも、どうしても行かんばらんとき、この人はだれに見てもらおうもない。急なときはです。ちゃんと決まっているときは、ヘルパーさんなんかと契約しながらずっと行けるけれども、急にということが絶対ある。そのときに、お金を出せばどこでもしてくださるでしょう。そのお金がないんですよ。ですから、一時預かる施設というものを何とか考えていただけませんかということでした。

そこで、市の職員の方の話や、いろんな話が出ましたけれども、今は補償とかですね、もし預かっていたときにその方がどうかあったら、補償とかいろんな問題がたくさん出てくる。でも、とにかく、赤ちゃんを預けるところはあるでしょうがと、一時預かりとかですね。でも、障がい者、寝たきりの人を預けるところがない。それがあれば、私たちは頑張ってされる。それはもう痛切に、それはもうたくさんの方の意見でした。本当にそれを何とかしてほしい。

だから、本当に思いました。今から先、257名の方が待機していらっしゃるというこの時期に、健康で、お金があって、そして介護するのはできるでしょうけれども、老老介護、そして年金だけで、もうざらにあります。その方たちが幸せに暮らしていくために、切実な願いを聞いて、私は介護のことをいろいろ今まで言ってきたけれども、4年間の最後にこれだけは何とかしなくてはいけないなと思って帰ってまいりました。市長の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

上野議員の切々たる御質問を聞きながら、私の母のことであつたり、祖母のことであつたり、あるいは上野議員が一生懸命介護をされていたということも仄聞をしておりますので、その光景を思い浮かべました。そして、何よりもいろんなところに今出向いていますけれども、最も大きい話がやはり老老介護の問題であります。

その答弁に入ります前に、ちょっと1つお約束したいことがあります。先ほど部長答弁の中で、どれだけの期間を待てば、例えば老健に入れるのかわからないという質問がありまし

たけれども、私も確かにいろんな例を聞きますので、これは一回、行政として調査を行います。聞き取り調査を行って、大体どれぐらいの期間を待てば入居ができるかということ調査したいというふうに思います。その上で、またそれをきちんと分析して、今二百数十名の待機者の方々がいらっしゃるけれども、一日でも早く入っていただくように方策を考える必要があるだろうと、まず分析をきちんとする必要があるだろうというふうに思っています。

その上で答弁に入りますけれども、やはり老老介護で、介護される方も、介護するほうも本当にお疲れであるということは、私も手紙を幾つかいただいてもいます。その中で、行政ができることについては幾つかあると思うんですけども、一つの方策として、これはきちんと財源を見つけて、特に老老介護の支援の支給金をしたいというふうに思います。これは、あくまでも年金の中で老老介護をされている方、あるいは先ほどありましたように、介護タクシーの問題であるとか、あるいは紙おむつの問題であるとか、それは人によってさまざまありますので、これは私どもから用途をこうだと上から目線で決めつけるのではなくて、その中で臨機応変に使っていただくような介護支援金がもう必要だろうというふうに思っておりますので、それをすることによって、せめてもの肩の荷がおりるように、おりていただくような支援をきちんと考えてまいります。

その中で、ぜひですね、きょうは老健の施設の方とか、いろんな方々もたくさん見られていると思いますので、これはこうであれば、先ほどのショートステイの話だったと思いますけれども、情報がまだあんまりないんですね。ですので、ぜひ各施設の皆様方におかれては、自分たちはこういうメニューがあるということも幅広くPRをしていただいて、これは場合によっては、私どもでも市報やホームページを使ってPRすることもやぶさかではありませんので、むしろ、これは積極的にすべきだとも思っておりますので、ぜひ施設の皆様方の御協力もお願いしたいと、このように思っております。事態はそれだけ深刻であるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に深刻な事態、私たちも改めて考えさせられました。多分きょうもたくさんの方が見ていらっしゃると思いますので、一日も早くそういう施策をお願いしたいなと思っております。

介護というのは、本当に一番目に見えないところです。でも、やっぱりその方たちは今まで私たちを支えてくださった人たちだと思いますし、また大事にしていかなければならない人たちだと思っております。いつか福祉文教でも行きました。老老介護して、どうすればいいのかというところを見に行き、そのときにいろんな施策をしておられました。もう年寄

りばかりの限界地域になってどうしようもない。若い人を雇って——雇ってというか、勤めとして市がその方を雇って、そして老老介護のところを回る。そして、市から給料を払うとか、そういう施策をしていらっしゃる市もありました。本当にそういう地域になってきた、そういう時代になってきたんだなとつくづく思っております。目に見えるところはできますけれども、市長がいつも言っているように、今議会でもいろいろずっと言葉は出ましたけれども、弱い立場の人というのにどうすれば目が行くものなのか、私たちは本当に気をつけてしていかななくてはならないなと思います。そこら辺をしっかりとしていけば、立派な市になっていくんじゃないかなと思っております。一日も早くこの介護については善処していただきますようお願いしたいと思います。

最後にですけれども、これもまた4年間の私の最後の願い、またこれも介護に属するところでございますが、エレベーターの件でございます。

お金がない、財源がないことは重々承知の上で、4年間私も頑張ってきました。4年前に、緊急事態としてエレベーターの設置ができないものだろうかということを私は質問いたしました。そのときの市長の答弁、覚えていらっしゃいますかね。「そんなに歩けない人がいたら、自分が抱えていくけんよかよ」と言われました。私は忘れもいたしません。

（「おいも覚えとう」と呼ぶ者あり）覚えとうですか。（「はい」と呼ぶ者あり）私は一遍も抱えてもらったことはありません。そのとき私は、ああ、この市長は若くて、ようそがんとはわからん人だと思いました。そのとき本当思いました。よし、今から私が思ったことは言うていくぞと、そのときしっかり思ったんです。4年間ずっとですね、最初から見ながら。今はですね、先ほどの答えでもわかりますように、本当に弱い人の気持ちのわかる立派な樋渡市政になってきたなと感心いたしております。私も一緒にやってきてよかったと思っております。

そのときですけれども、それ以来、市長にちょっとこれは変ですけど、お尋ねしますが、市長は階段を上がっていらっしゃる方の中に、大変だなと思うことを見かけたことがありますか。また、手助けをしたことがありますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お困りの方を見かけたことはもう数十回ありますし、そのお手伝いをしたことも少なからずあります。必ず私は自分から声をかけます。そして、「一緒に連れていってくんしゃい」と言う方がいらっしゃれば、それは手を引くなり、おんぶはまだ、「しましょうか」と言っても、「いや、それはよかよか」と言われますけれども、手を引いて御案内したりとかというのはもう幾つもあります。お困りのところを見たことも複数あります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

多分そうだと思います。でも、たくさんいらっしゃる市民の中で、市長におんぶしてもらおうとか、そういう勇気のある方はいらっしゃらないと思うんです。でも、きょうもですね、私が「エレベーターば言うよ」と。そしたら、我慢して4階まで上がってきていらっしゃる方もいらっしゃいます、傍聴に来てもいただいております。なぜエレベーターが必要なのか。庁舎は市民が一番共有する場所です。ここにすべてが集まります。すべての人がここに来て、いろんな手続をし、議会の傍聴をし、いろんな話を聞き、要望を言いここに寄ってまいります。だから、本当は庁舎が一番いいところでなくてはならないと私は思っております。

ましてや、私たち議員も、足が悪くても議員には立ちたいと思います。なのに、議会に来られないということは大変なことだと思います。お金がないことはもう重々承知しておりますが、その点ですね、なぜなのか。エレベーター設置について、今までこの4年間、どのような考え、話し合い、協議がなされたものなのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

この庁舎のエレベーターにつきましては、これまでも御意見をいただいているところでございます。この庁舎につきましては、以前からもエレベーターについては検討をしてきております。その中で、構造上この庁舎は4階まで直通できる適当な場所が見つからないと。その中で、仮に今の庁舎の中ですらつくるとした場合に、まず東側の入り口の横、これは畳の部屋、会議室等を持っていますけれども、仮にそこをつぶして4階まであそこを上げるとした場合には、その上に相談室とか、スタジオ、教育委員会の一部、そういうのがつぶれるわけでございます。そのためには、またそのスペースを確保しなくてはいけないと。それについては、また多額の費用がかかるだろうと。

それと、東側の階段、仮にあそこにエレベーターを設置した場合ということになりますと、今度は階段をどこかで確保しなければいけない。そうすると、また膨大な費用がかかる。それからもう1つ、非常にこれは大きな問題なんですけれども、エレベーターの設置となりますと増築になるということで、増築の場合は耐震診断が必要でございまして、耐震補強が必要になるというようなことで、耐震補強をしなければいけないというような構造上の問題もございまして。こういったところから、エレベーターの建設に着手できないでいるのが現状でございまして。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

ちなみに、どのような方法にしろ、そのように話をさせていただいているということは本当に感謝します。いろんな方策を練っていらっしゃることはですね。

ちょっとお尋ねですけど、もしそういうふうにした場合に、費用としてはどれくらいかかるものですか。大ざっぱで結構ですけども、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

2階まで今つくっていますけれども、これが約4,600万円でございます。それから推測しますと、4階まで行くと1億円以上の費用がかかるだろうと。それに、耐震調査をしますと耐震の補強と、これはまだ見積もっていませんけれども、これがまたプラスになるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

1億円以上かかるだろうということでございますが、じゃあ最後にまたお尋ねをします。再度本当にあれですけど、4年間の思いを込めてですので、すみません、もう一度。

それでは、市としては、市長としては、議会には自分で上がって来れない人は来れないということ、それから、例えば職員の中で障がいを持っている方でもここには来れない、いろんなことがあるんじゃないかなと思いますが、そのままずっと行かれるつもりなのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

上野議員の御指摘はそのとおりだと思います。私たちとしては、財政上の問題に加え、先ほど耐震という構造上の問題もあります。したがって、エレベーターの設置に関しましては、可能性については、今後、調査検討をきちんといたしたいと思っております。ですので、何も検証もせずままに、そのままだというつもりはありません。しっかり検証をした上で、できない理由より、できる理由を探そうということを思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

前日も同じような返答じゃなかったかなと思います。本当にできる方向に向けてということで、やっぱりこのままではいけないと思います。市がこのままでは、私はいけないと思います。みんなに開かれた真のバリアフリーな市でなくてはいけないし、市政でなくてはいけないと思っております。本当に市長は真からどのようにお考えなのか。また、4月から新しい市になります、新しいメンバーにもなります。でも、この4年間、それでよかったものなのか。だって、エレベーターじゃなくても、いろいろあるじゃないかと言われる意見はあると思います。でも、エレベーター1つにこそ、すべてのものも変わっていく、考え方がかかっていると私は思っておりますので、最後、市長お聞きしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはまだ答弁を実は整理しておりませんが、私の考えを、せっかくの機会なので申し述べたいと思っております。

私といたしましては、今まで合併をして、旧山内、旧北方の庁舎の活用を優先して考えてまいりました。そのために、全国いろんなところを見回してみても、一定の開かれた市政ということで、それは一定の評価をいただいております。その中で、議場の問題だけ特化して申し上げますと、確かにここに、先ほど――これは約束します、調査検討をきちんといたします。その上で、一時的な話として、この定数も削減されますので、これもちょっと補強が必要かもしれませんけれども、例えば山内町の議場で議会をやる、あるいは北方町の議場で議会を行うという、それはエレベーターもありますので、そういうことも必要なんではないかなということは実は前々から思っておりました。ただし、これは単なる私の考え方でありますので、例えば御高齢者の皆様方であるとか、障がいをお持ちの方であるとか、社会的に弱い、身体的にも弱い方々の御意見をしっかり拝聴しながら、まず、できることをやる、やらなければいけない。その中で、先ほど申し上げましたように、これはさっきの、本庁舎のこの議場については時間がやっぱりかかります。それは、しっかり調べた上で行うという2段階構えで行えばいいのかなというふうに思っております。そのときに、ケーブルワンの配線が北方と山内で行けるのかなということも、多分、山内はちょっと厳しいのかなということも拝察されますので、これは市民の皆さんたちもかなり関心が高うございますので、いろんな意見を聞きながら、多聞第一、できることを考えたいというふうに思っております。

いずれにしても、上野議員と考え方、そして、やるべき方向は全く一緒でありますので、そういった意味で、またアドバイスを賜ればありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

多聞第一、本当にいろいろ聞いていただいて、前向きにということで楽しみにしておりますが、また新しい市政になりますので、どうぞ新しい樋渡市政になってから一番に取り組んでいただきますようお願いしたいと思っております。

本当にいろんな質問をしてきましたけれども、私が思っている教育のこと、それから環境のこと、それから福祉のこと、いろんなことたくさんありましたけれども、いろんなことを実現できてうれしいこともたくさんありました。でも、今申しましたように、エレベーターのことは最終的な目的であります。みんなのことを考える、優しい市政を進めていく、そのためには金銭にはかえられないいろんな問題があると思います。どうぞ新しい市政になってから、みんなが温かく迎えることができる市庁舎にしていきたいなと思っております。

終わります。